

長尾伸一教授著作目録

〈著書〉

- 『ニュートン主義とスコットランド啓蒙』名古屋大学出版会 2001年
『トマス・リード 実在論・幾何学・ユートピア』名古屋大学出版会 2004年
Politics and Society in Scottish Thought, Imprint Academic, London 2007年
『複数世界の思想史』名古屋大学出版会 2015年

〈共編著〉

- 『EC経済統合とヨーロッパ政治の変容』河合出版(住沢博紀, 坪郷實, 長尾伸一, 阪野智一, 長岡延孝, 伊藤公夫編著) 1992年
『EU経済統合の地域的次元—クロスボーダー・コーペレーションの最前線—』ミネルヴァ書房(若森章孝, 八木紀一郎, 清水耕一, 長尾伸一編著) 2007年
2012年
『緑の産業革命—資源・エネルギー節約型成長への転換』昭和堂(長尾伸一, マルティン・イエーニッケ, ミランダ・シュラース, クラウス・ヤコブ編著) 2015年
『徳・商業・文明社会』京都大学学術出版会(坂本達哉, 長尾伸一編著)
『現代経済学史の射程—パラダイムとウェルビーイング』ミネルヴァ書房(長尾伸一, 梅澤直樹, 平野嘉孝, 松嶋敦茂編著) 2019年

〈共著書:分担執筆〉

- 「社会科学史における混沌と秩序」吉田民人, 鈴木正仁編『自己組織性とはなにか』ミネルヴァ書房, pp. 225-245. 1995年
「壊れやすい時計—初期ニュートン主義と政治経済学の形成」田中真晴編『自由主義経済思想の比較研究』名古屋大学出版会, pp. 53-85. 1997年
「動力のない機械—近代自然科学と神のいない自然の起源」平井俊彦監修・京大社会思想史研究会編『再構築する近代—その矛盾と運動』社団法人全国日本学士会, pp. 3-28. 1998年
「『スミス以前の経済学』への科学史的アプローチ」経済学史・社会思想史研究会『経済学・経済思想の諸パラダイムの比較検討—現代経済学のあるべきパラダイムを求めて—』サンライズ出版, pp. 5-20. 2006年
「公的言説圏の複数性—18世紀イギリスの哲学と数学の言説をめぐって」大野誠編『近代イギリスと公共圏』昭和堂, pp. 73-101. 2009年
「ニュートン主義と薔薇十字団員の月世界旅行」富永茂樹編『啓蒙の運命』名古屋大学出版会, pp. 104-137. 2011年
「ソーシャル・キャピタルと産業発展・企業」坪郷實編『ソーシャル・キャピタル』ミネルヴァ書房, 第8章 2015年
「「欧州2020」戦略とその地域政策をめぐって」八木紀一郎, 清水耕一, 徳丸宜穂編著『欧州統合と社会経済イノベーション?地域を基礎にした政策の進化』日本経済評論社, 第1章 2017年

〈編・監訳〉

- 『成功した環境政策』有斐閣(長尾伸一, 長岡延孝編訳, マルティン・イエーニッケ, ヘルムート・ヴァイトナー編著) 1998年

- 『制度の政治経済学』木鐸社 (長尾伸一, 長岡延孝編訳, ロジャー・ホリングワース, ロベール・ホワイエ, ピーター・A. ホール, ピーター・カツツェンスタイン, ジェフリー・ハート, アラン・コーソン, フィリップ・シュミッター著) 2000年
- ミランダ・A. シュラーズ『地球環境問題の比較政治学: 日本・ドイツ・アメリカ』岩波書店 (長尾伸一, 長岡延孝監訳) 2007年
- ジョエル・モキイア『知識経済の形成—産業革命から情報化社会まで』名古屋大学出版会 (長尾伸一 監訳, 伊藤庄一 訳) 2019年
- 〈共訳書〉
- O. ラフォンテーヌ『国境を超える社会民主主義—変貌する世界の改革政治』現代の理論社 (住沢博樹他訳) 1989年
- ロバート・ウェイド『東アジア資本主義の政治経済学 輸出立国と市場誘動政策』同文館出版 (長尾伸一, 畑島宏之, 藤縄徹, 藤縄純子訳) 2000年
- 〈学術論文〉
- 「ヘーゲルにおける言語と労働」『社会思想史研究』第 8 号, pp. 110-125. 1984年
- 「アダム・スミスとニュートンの方法」『思想』pp. 102-125. 1988年
- 「アダム・スミスとスコットランドの科学革命」『彦根論叢』第250号, pp. 107-132. 1988年
- 「サッチャー以後の社会民主主義」長尾伸一, 長岡延孝『経済評論』第39巻 8 号, pp. 42-62. 1990年
- 「エディンバラ哲学協会でのニュートン批判とケイムズ運動論」『彦根論叢』第265号, pp. 75-109. 1990年
- 「ロンドン王立協会とエディンバラ哲学協会」『彦根論叢』第269号, pp. 131-161. 1991年
- 「根源への無限の階梯—18世紀前半の世界論と初期ニュートン主義」『経済論叢』第156巻第 4号, pp. 56-82. 1995年
- 「経験科学と道徳哲学: アバディーン哲学協会」『広島大学経済論叢』第19巻第 3・4 号, pp. 17-41. 1996年
- 「エディンバラ選良協会議事録の分析」『広島大学年報経済学』第17巻, pp. 101-112. 1996年
- “Linearity and the Imperfection of the Universe; Changing World View of Scottish Intellectuals and its Implications to the History of Social Sciences” (「線形性と宇宙の不完全性; 変容するスコットランド知識人の世界観とその社会科学史的意味」) 『広島大学経済論叢』第20巻第 1 号, pp. 1-41. 1996年
- 「道徳哲学の終焉と「社会科学における実験」」『広島大学経済論叢』第20巻第 2・3 号, pp. 67-96. 1997年
- 「中小企業政策の政治学: イギリス労働党の中小企業政策と現代イギリス企業の変貌」『広島大学経済研究双書11』, pp. 17-50. 1997年
- 「18世紀中葉エディンバラでの自然科学の議論: ニュートン協会議事録」『広島大学年報経済学』第19巻, pp. 13-30. 1997年
- 「アバディーン啓蒙のニュートン主義—大学改革と「新しい論理学」」『イギリス哲学研究』第20号, pp. 35-50. 1997年
- 「最初のスミス批判: トマス・リード「治政論講義」の価格論」『広島大学経済論叢』第21巻第1号, pp. 23-48. 1997年
- 「哲学的政治学の終焉: スペキュレーティヴ・ソサイエティにおける議論の転換」『広島大学経済論叢』第21巻第 2 号, pp. 85-120. 1998年
- 「スミスの方法論の起源: ポール・ロワイヤル論理学とオックスフォードの天文学」『広島大学経済論叢』第21巻第 3 号, pp. 19-48. 1998年

- 『『解析者』と『流率論』における無限性』『広島大学年報経済学』第19巻, pp. 1-23. 1998年
- “The Price Theory of Thomas Reid: A Reconstruction from Birkwood Collection of Aberdeen University” (「トマス・リードの価格理論：アバディーン大学パークウッドコレクションからの再構成」)『広島大学経済論叢』第22巻第1号, pp. 241-267. 1998年
- 「経済学のディシプリンと市場普遍主義の起源」『現代思想』第29巻第10号, pp. 259-277. 2001年
- “Adam Smith's Methodology and the Legacy of Newtonianism in 18th Century Scotland”, *The Economic Science*, 第50巻2号, pp. 57-74. 2002年
- 「アダム・スミスの方法論と18世紀科学のコンテクスト」『思想』第942巻, pp. 105-135. 2002年
- 「機械と身体：経済学的言説におけるレトリックとメタファー」『経済学史学会年報』第42巻, pp. 106-117. 2002年
- “Political Economy of Thomas Reid”, *Journal of Scottish Studies Incorporating Reid Studies*, 第1巻, pp. 21-33. 2003年
- “The Establishment of Empirical Logic in 18th century Scottish Moral philosophy”, *The Economic Science*, 第51巻第4号, pp. 29-40. 2004年
- 「EUリスボン戦略に関するコック報告と社会的ヨーロッパの展望」『現代の理論』第3巻, pp. 57-68. 2005年
- 「19世紀ブリテンの『世界の複数性』論争」『経済科学』第53巻第3号, pp. 1-17. 2005年
- 「科学としての経済学の過去と現在—『パラダイム』と『モラル・サイエンス』をめぐって—」『彦根論叢』第356号, pp. 1-27. 2006年
- 「エディンバラセレクト・ソサイエティで議論されたテーマ：1754年から1763年まで」『広島大学経済論叢』第19巻第2号, pp. 69-100. 2006年
- “The Discovery of Modern Market Society and its Political and Social Implication: An Aspect of Scottish Political and Social Thought in the 18th Century”, *The Economic Science*, 第54巻3号, pp. 1-24. 2006年
- 「現代のヨーロッパ研究」への視点』『研究論集』河合文化教育研究所, 第4巻, pp. 183-207. 2007年
- 「第三次産業革命」は可能か?』『現代の理論』第22巻, pp. 192-196. 2010年
- “Scottish Newtonianism in Moral Sciences; Ferguson, Reid, Smith and Scottish Natural Scientists”, *Economic Science*, 第54巻第3号, pp. 1-15. 2010年
- “Thomas Reid on the plurality of worlds: its Scottish contexts and beyond”, *Economic Science*, 第54巻第4号, pp. 1-24. 2010年
- 「エコロジー的近代化論と「緑の産業革命」」『ドイツ研究』45号, pp. 39-53. 2011年
- 「明治初期の天文学と世界の複数性論」『経済科学』第61巻第3号, pp. 1-14. 2013年
- 「初期近代ヨーロッパにおける複数世界論の展開」『経済科学』第61巻第4号, pp. 1-21. 2014年
- 「18世紀における天文学的複数性論の普及—天文学者とサイエンス・ライター」『経済科学』第62巻第1号, pp. 1-18. 2014年
- 「エコロジー的近代化とスマートスペシャリゼーション：ヨーロッパ2020とその地域政策をめぐって」『経済科学』第63巻第2号, 名古屋大学経済学部, pp. 1-13. 2015年
- 〈事典〉
- 項目「科学革命」社会思想史学会編『社会思想史事典』丸善出版, pp. 98-99. 2019年
- 〈書評・その他の研究業績〉
- “J. G. A. Pocock, *Virtue, Commerce and History*, Cambridge University Press, 1985”, 『経済学史学会年報』第26巻26号, 政策提言・論評解説・書評等 1988年
- 「研究例会報告要旨」吉澤昌恭, 栗原淑江, 森本哲夫, 三井礼子, 田中正司, 長尾伸一, 田村 1989年

- 均『イギリス哲学研究』第12巻, pp. 71-79.
- 「水田洋 (監修), 水田洋・山崎怜・須藤壬章・篠原久・只腰親和・藤江効子訳『アダム・スミス哲学論文集』名古屋大学出版会, 1993, 362P」『経済学史学会年報』第31巻31号, p. 161. 1993年
- 「環境政策が成功する諸条件 国際比較による検討」Janicke, M 著, 長尾伸一, 長岡延孝訳, 『大阪経大論集』第45巻 3号, pp. 203-233. 1994年
- 「M. イェニック他「構造転換のエコロジ的側面」(訳および書評)」『大阪経大論集』第44巻 6号, pp. 205-231. 1994年
- 「マルティン・イエニック他著「グリーンな産業政策と『汚染産業』の将来」」Janicke, M 他著, 長尾伸一, 長岡延孝訳, 『大阪経大論集』第46巻 6号, pp. 425-455. 1996年
- 「只腰親和『天文学史とアダム・スミスの道徳哲学』」『経済学史学会年報』第34巻34号, p. 164. 1996年
- 「研究動向—スコットランド啓蒙における自然科学と社会科学のインターフェース」『経済科学』第48巻第1号, pp. 101-110. 2000年
- 「国際学会報告」『日本18世紀学会年報』第15巻, pp. 56-57. 2000年
- 「学界展望 第二回国際リード・シンポジウムおよびリード・プロジェクト」『イギリス哲学研究』第24巻, pp. 63-65. 2001年
- 「金森修・中島秀人編『科学論の現在』」『化学史年報』第30巻, pp. 198-199. 2003年
- 「学会展望 2003年国際18世紀学会(ロサンゼルス)大会 日韓共同セッション「東アジアと啓蒙」」『日本18世紀学会年報』p. 54. 2004年
- 座談会「戦後日本における『啓蒙』研究の発想と論理」安田常夫, 木前利秋『社会思想史研究』藤原書店, 第30巻, pp. 8-51. 2006年
- “Niccolò Guicciardini, Reading the Principia: The Debate on Newton's Mathematical Methods for Natural Philosophy from 1687 to 1736”『日本18世紀学会年報』第23巻, p. 38. 2008年
- 「国際学会報告: 2010年国際リード・シンポジウム」『イギリス哲学研究』第34巻, pp. 107-116. 2011年
- 「特別公演 早すぎた宇宙時代 18世紀の複数世界論」『化学史年報』第45巻, pp. 88-90. 2018年
- 〈研究発表等〉
- 「スミスと自然科学の方法」経済学史学会第51回全国大会 1987年
- 「スコットランドにおけるニュートン受容とモラル・フィロソフィー」日本イギリス哲学会 1987年
関西部会
- 「ロンドン王立協会とエディンバラ哲学協会」日本イギリス哲学会関西部会 1992年
- 日本イギリス哲学会第20回総会・研究大会シンポジウム「市民社会と宗教」コメンテーター, 1996年
日本イギリス哲学会第20回総会・研究大会
- “Linearity and the Imperfection of the Universe; Changing World View of Scottish Intellectuals and its Implications to the History of Social Sciences”, 18世紀スコットランド歴史学会大会 1996年
- 「経済学史の中のニュートン主義—「社会科学における実験の不可能性」を中心に」経済学史学会第60回全国大会 1996年
- 「初期ニュートン主義と複雑性」進化経済学会第一回京都大会 1997年
- 「18世紀スコットランドの自然科学」日本18世紀学会第19回大会共通論題「18世紀自然科学の多面体」パネリスト 1998年
- “The First Critic of Adam Smith?: The Price Theory of Thomas Reid”, イギリス経 1998年

济思想史学会大会	
“Two Newtonianisms in the Scottish Enlightenment: A Reconsideration of the Influence of Newton upon Social Sciences”, 国際18世紀学会大会	1999年
『『スミス以前の経済学』への科学的アプローチ』 経済学史学会第63回全国大会ミニシンポジウム「重商主義の再検討」パネリスト	1999年
“Reid’s Political Economy and its Relation to his Methodology”, 第2回国際リードシンポジウム	2000年
“Contributions of Reid and Gerard to the “New Logic” in the 18th Century”, “アバディーン大学リード・プロジェクト主催ワークショップ「忘れられた哲学者たち」”, 招待・特別	2001年
“Adam Smith’s Methodology and the Legacy of Newtonianism in 18th Century Scotland”, 18世紀スコットランド歴史学会・アダム・スミス協会合同大会	2001年
“The Plurality of Philosophical Discourse in the 18th Century: The Case of Thomas Reid”, 韓国18世紀学会Spring Conference, 招待・特別	2003年
“The Enlightenment and East Asia”, the Congress of International Society for the 18th Century Studies	2003年
「トマス・リードにおけるヒューム批判」日本ヒューム研究学会	2003年
「イングランド南東部とフランス北部のINTERREG」進化経済学会	2005年
「18世紀ブリテンにおける哲学的言説の複数性」日本西洋史学会第55回大会小シンポジウム「近代イギリスにおける公共圏」	2005年
“18th Century British Newtonianism and Japanese Natural Philosophy in the late Edo period”, 韓国18世紀学会大会	2005年
大会セッション「18－19世紀英仏における科学と社会科学」世話人, 社会思想史学会第31回大会	2006年
“The Enlightenment and East Asia” part 1, part 2, the Congress of International Society for the 18th Century Studies	2007年
大会シンポジウム「福祉国家の思想再訪」司会, 社会思想史学会第32回大会	2007年
大会セッション「18－19世紀英仏における科学と社会科学」世話人, 社会思想史学会第32回大会	2007年
Scottish Intellectuals’ Influences in 19th century Japan, Shinichi Nagao, CSSP Spring Workshop2009: Scottish Philosophy in America and Asia	2009年
共通論題「帝国」基調報告および司会, 長尾伸一, 日本18世紀学会第31回大会	2009年
Thomas Reid on the plurality of worlds: its Scottish contexts and beyond, Schinichi Nagao, Thomas Reid From His Time To Ours: Annual Conference of the British Society for the History of Philosophy 2010	2010年
エコロジー的近代化論と「緑の産業革命」第26回 日本ドイツ学会シンポジウム, 招待・特別	2010年
Scottish Newtonianism in Moral Sciences; Ferguson, Reid, Smith and Scottish Natural Scientists, Schinichi Nagao, 2nd Princeton International Symposium on Scottish Philosophy & 18th Scottish Studies Society Annual Conference in association & the International Adam Smith Society	2010年
Public Knowledge in the East and the West: Comparative perspective, Shinichi Nagao (Session Organiser and proposal), ISECS Congress 2011	2011年
Comparative Studies of Newtonianism in Europe and Asia, Shinichi Nagao (Session Organiser and proposal), ISECS Congress 2011	2011年

「都市と災厄の思想」長尾伸一, 司会及び趣旨説明, 社会思想史学会第36回全国大会共通論 題	2011年
「各国, 各時代比較による近代社会思想史記述の試み — オイコノミア、エコノミー, そして 経済 — 概念と知の類型」長尾伸一, 世話役および司会, 社会思想史学会第37回全国 大会セッション	2012年
「公共知の概念」長尾伸一, 韓国・日本十八世紀学会共同学会—知識の生産・集積・交流	2013年
各国, 各時代比較による近代社会思想史記述の試み, 長尾伸一, 世話役および司会, 社会思 想史学会全国大会セッション	2013年
Utility and sociability in 18th century the East and the West, 1. Shinichi Nagao (Session Organiser and proposal), ISECS Congress 2014	2014年
17-18 世紀における地球と人間の寿命, 長尾伸一, 中部大学中部高等学術研究所共同研究会 「寿命 — 無限か再生か」	2014年
エコロジー親和的な社会経済発展戦略: 制度と経路依存性をめぐって, 長尾伸一, 世話役お よび司会, 進化経済学会大会セッション	2015年
「複数世界論の普遍性, 多様性と18世紀における機能」長尾伸一, 坂本貴司, 玉田敦子, 林 文隆, 鈴木彰, 日本18世紀学会全国大会共通論題報告	2017年
特別公演「早すぎた宇宙時代 18世紀の複数世界論」, 2018年度化学史学会研究発表会 (年会)	2018年
アジア「環境福祉国家」論の展開可能性, 長尾伸一, 世話役および司会, 進化経済学会大会 企画セッション	2019年
企画: 産業革命における経済成長と知識—モキアの知識経済論の批判的検討—, 長尾伸一, 世話役および司会, 進化経済学会大会企画セッション	2019年
Asian Identities in the Global Enlightenment, Shinichi Nagao (Session Organiser and proposal), ISECS Congress 2019	2019年
Ecological modernisation, ecological welfare and ecological civilisation, 中国社会科学院 国際フォーラム	2019年
最終講義「啓蒙のモーメントと現代」(2020年3月24日に予定されていたが延期のため後日 開催の上内容を公開予定)	2020年

長尾伸一教授略歴

(学 歴)

1982年3月 京都大学経済学部卒業
1987年4月 京都大学大学院経済学研究科 理論経済学・経済史学専攻 博士課程修了

(学 位)

2002年1月 経済学博士（京都大学）

(職歴)

1987年10月 滋賀大学経済学部助手
1988年11月 滋賀大学経済学部講師
1992年11月 滋賀大学経済学部助教授
1995年10月 広島大学経済学部助教授
1999年4月 名古屋大学経済学部助教授
2000年4月 名古屋大学大学院経済学研究科助教授
2003年8月 名古屋大学経済学研究科教授
2020年3月 定年退職

(所属学会)

国際18世紀スコットランド歴史学会
国際18世紀学会
日本18世紀学会 代表幹事、幹事
日本イギリス哲学会
日本環境会議
社会思想史学会 幹事
経済学史学会
進化経済学会 理事
日本科学史学会

(受賞)

第23回サントリー学芸賞（思想・歴史部門）